

期発見・治療できるかどうかが大きくなるとなると、健診や検診は非常に重要です。新病院には健診センターを設けるので、元々健康意識が高い多久市では、さらに健診を受ける人が増えるのではないかと期待しています。

**市長** ええ、多くの人に健診・検診を受けていただき健康改善保持できることを私も期待しています。がんはもとよりすべての病気で早期発見・治療が大切だと思います。まず病気にかからないように、あるいは悪化しないように努めたいものです。どのような方法があるでしょうか？

**佐藤** まずは予防ですね。予防は一次、二次、三次の3段階に大別されます。先ほど話していた早期発見・治療は「二次予防」で、今仰った罹患を防ぐものは「一次予防」です。一次予防として効果的なのは、やはり生活習慣の改善。お酒やタバコ、睡眠など、一気に変えることは難しくても、気を付けることが予防につながります。少しずつでも実践してみたいですね。「三次予防」では回復や社会復帰をめざしますが、がんであれば苦しめないように緩和ケアを施すことも含まれます。

**市長** なるほど。どの予防も重要ですね。また、新型コロナウイルスの経験からもワクチンは大変重要だと実感しまし

た。おかげさまで多久市では、市民のみなさんによくご理解いただいたこともあり、県内トップクラスの接種率で推移していましたが、ワクチンの予防効果ついてはいかがでしょうか？

**佐藤** 感染症予防にはワクチンが大変有効です。例えば子宮頸がんは、男女間で感染するHPV（ヒトパピローマウイルス）がほとんどの発症原因となりますが、オーストラリアでは多くの男女がワクチンを接種しています。その効果で3年後には撲滅するとの予測もあり、こうした話を聞くと、どんな病気も必ず撲滅できるという希望が見えますね。

**市長** それは明るい予兆ですね。未然に防げる病気を増やすためにも、新たな病院でしっかりとフォローしていきたいですね。

医療DX推進でより良い医療を

**佐藤** 医療界はマイナ保険証への移行・対応や電子処方箋の活用などが徐々に進んできました。また、タブレット端末を使用した面会や家族説明への対応も広がっており、特に遠方にお住まいの人から喜ばれています。

**市長** 多久市立病院でもコロナ禍においてタブレット端末による面会を実施し、大変ご好評いただきました。また、私はマイナンバー制度ができる前から、番号制度による新しい行政の創造について政府関係者に提言してきたのですが、こうして健康保険証と紐づけされると、災害時や急な体調不良で救急医療にかかる時などでも、即座に血液型、服薬歴、既往歴などが分かり、迅速な治療対応に活かされます。一刻を争う場面でも、心配が減りますよね。



よこ お とし ひこ  
多久市長 横尾 俊彦

多久小城医療組合 管理者。医療サービスの充実をめざし、新公立病院の設立・整備をリード。令和元年度、3年度、4年度とこれまで3回、特定健診実施率と特定保健指導実施率で全国の市・区の中で2位の栄誉へと導き、厚生労働大臣表彰を受けた。